



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**

GR86/BRZ Race Rd6-7 十勝インターナショナルスピードウェイ

**十勝のWヘッダー、第6戦で2度目の入賞となる6位を獲得
第7戦はクラッチトラブルに見舞われながらも、11位でゴール**

TOKACHI SPEEDWAY

GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series 第6戦&第7戦

2018年8月19日 十勝スピードウェイ (北海道)

晴れ 14周 (22台出走)

第6戦：予選6番手/決勝6位

第7戦：予選12番手/決勝11位

ドライバー：平木 湧也

チーフメカニック：清水 修 (営業支援部)

メカニック：古市 陽治 (日立田尻店)

メカニック：重藤 大貴 (水戸千波店)

メカニック：矢島 右喬 (アートタワー水戸店)



茨城トヨペットレーシングが、平木湧也選手とともに挑むGR86/BRZレースのプロフェッショナルシリーズ第6戦と第7戦が8月19日に十勝スピードウェイで開催された。今回は今季唯一のWヘッダー大会として、しかも予選から決勝2レースを1日で行う、極めてハードな戦いとなった。

昨年からWヘッダー大会となった北海道の十勝ラウンドではあるが、今年は日曜日だけの1デイ開催となり、あらかじめ『長い1日』となることは大いに予想することができた。また、大半のドライバーが年に1回だけ走るサーキット、ということもあって入りも早く、茨城トヨペットレーシングも水曜日には北海道の大地に足を下ろし、木曜日から練習を開始することになった。順調にメニューをこなして、好感触を得ていた平木選手だったが、金曜日になってミッショントラブルが発生。しかし、原因はすぐに突き止められ、さらに大事をとってミッションを交換することで、問題なく走行を再開することができた。

土曜日にも練習走行が3セッション行われ、その最後は専有走行とあって、初めてタイム計測が行われることに。予選モードの走行では、ややミスもあって1分36秒167を記すに留まり、トップからコンマ8秒遅れでの15番手となったが、その後の決勝モードでの走行では、1分36秒台から37秒台前半でコンスタントに周回を重ねていた。

昨年も予選は1回だけ行われたが、第2レースのグリッド決定が第1レースのベストラップ順ということ、そしてタイヤは6本まで使用が許されていたがゆえに、若干混乱を来すこととなった。しかし、今年はセカンドベストタイムで第2レースのグリッドを決めるように、さらにタイヤは8本までの使用が許されたことから、どうあれ普段のような1アタックだけで済まず、2アタックが必要となる。となれば、予選の途中でタイヤを交換して.....と考えるのが筋。だが、いつもと同じ15分間の計測では、慌ただしさのあまり交換に、昨年とは違った混乱を来しかねない。そこでエンタラントからの5分延長を、という要望は受け入れられた。

その分、プロフェッショナルシリーズの予選開始は、5分早まって8時20分からに。もっとも車検開始がもとより7時からなのだから、それほど影響ないといえば、ないけれども。さて、つい先日まで全国的に猛暑が続いていたものの、一気に秋へ突入という印象に。何しろ大会当日は、「涼しい」を通り越して、もう「寒い」とさえ感じられたほどだった。

その予選で平木選手は、計測開始と同時にコースイン。さっそく最初のアタックを敢行するも、痛恨のシフトミスがあり、1分35秒592を記すに留まってしまう。しかし、今回はもう一度チャンスがある。タイヤを交

換して、しばしピットで待機。ラスト 5 分で再びコースインし、先の走行の反省点を踏まえて、再びコースを平木選手はコースを果敢に攻め立てる。その結果、1分35秒146にまで短縮を果たして、一気に7番手にまでジャンプアップ。その後、ペナルティを受け、2グリッド降格になったドライバーがいたことから6番手に繰り上がり、またセカンドベストタイムでも12番手を獲得。2レースとも入賞が夢ではないポジションからスタートを切ることとなった。

「1回目のアタックはシフトミスしてしまったんですが、それでもあのぐらいのタイムが出るならと、うまくまとめられた2回目のアタックは、予想どおりのタイムが出て良かったです。まず、前の方からスタートできる第1レースで、いい結果を残したいと思います」と平木選手。

予選終了から3時間たらずで、第6戦決勝レースのスタートが切られることとなった。レッドシグナル消灯からの反応はまずまずだった、平木選手は1コーナーの進入こそポジションキープだったものの、オープニングラップのうちに1台にかわされてしまう。しかし、前から遅れを取ることなく続いて逆転のチャンスを待ち、4周目の1コーナーで並んだ車両に2コーナーでクロスラインをかけて、早々と6番手に振り返ることとなる。

いったんは単独走行になりかけたが、中盤に入るとトップのペースが鈍り始め、先行する車両が1台、また1台とトップグループに加わるようになって、やがて平木選手にもその機会が与えられるように。誰かが動けば併せて生じるほころびで、しんがり走る平木選手には第2チャンスが訪れるものの、前に行くほぼ全員に優勝経験があるため、無茶はせず。結局、最後までトップグループに順位変動はなかったものの、平木選手はトップと約2秒差の6位ゴールを果たして2度目の入賞、そして予選同様ブリヂストンユーザーとして、最上位を得ることとなった。

やはり3時間足らずのインターバルで、第7戦決勝レースが行われた。12番グリッドから、どこまでポジションを上げるか注目されたが、スタートの瞬間に平木選手が感じたのは、クラッチの不調。そのためオープニングラップのうちに、ふたつ順位を落としてしまう。クラッチを労わりつつ、時折ギヤが入らなくなるも、我慢の走りを重ねていく。しかし、苦しいのは平木選手だけではなく。トラブルで順位を落とす車両が相次ぎ、8周目、11周目にそれぞれ順位を上げて、12番手に順位を戻すことに。

さらに最終ラップにも1台がコース脇に止めたことから、もうひとつ順位を上げて11位でフィニッシュ。入賞にはあと一步届かなかったものの、今回得られたのは、これまでにはなかった好感触。チームのムードも上昇傾向にある中、迎える次回の舞台は平木選手にとっても、茨城トヨペットレーシングにとってもホームコースの、ツインリンクもてぎ。9月23日には、期待に応えるレースを披露してくれるに違いない。

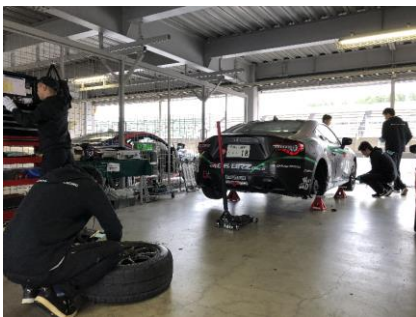
平木湧也選手のコメント



「第6戦のスタートはちょっと出遅れて、1コーナーは抑えたんですが、その後、平中（克幸）選手に抜かれてしまいました。すぐに1コーナーをアウト側から通って、そのままクロスで2コーナーのインを取って抜き返すことができました。ただ、内圧を低めにして終盤勝負という作戦を採っていましたが、そのバトルもあって序盤に離されたのが痛かったですね。最後はトップが大幅にペースダウンしたので追いつきましたが、抜くまでには至らなかったという感じです。それでもブリヂストン勢の中ではトップだったので、いい結果だったと思います」

「第7戦はスタートでクラッチが滑ってしまい、それで順位を下げたばかりか、時々ギヤが入らなくなったりもしましたが、リカバリーしながら走っているうちに少し復活してきて、ペースを上げることもできたんですが、それでも最初に落とした分が痛かったですね。トラブルが出なかったら、第7戦でもポイントを獲得ぐらいのポテンシャルはあったと思います。まあしょうがない。次は地元のもてぎですし、チームも今すごくいい雰囲気、クルマも僕もポテンシャルが高まってきたのを感じていますから、なんとか表彰台争いをしたいと思います！」

~ Photo ~



チームメカニックのコメント ～清水 修 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



GR86/BRZ Race への派遣に当たり、ご支援・ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。2 レース制で昨年までのレギュレーションに変更の有った十勝ラウンドでしたが、チーム丸となった結果第 6 戦は 6 位入賞でポイントを獲得する事が出来ました。今回から帯同している新人スタッフ 2 名の順応性も高く即戦力として活躍してくれました。次戦もてぎラウンドでは更に上位を目指したいと思っておりますので応援を宜しくお願い致します。

メカニックのコメント ～古市 陽治 (日立田尻店) ～



茨城トヨペット 86 レーシングチームを応援して頂いた皆様、店舗スタッフの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。予選決勝に向けてセットアップしていく中、雨でコースアウトしたり、ミッションがトラブルが出てみんなで交換したり、その場で迅速に判断したり、とても勉強になりました。自分の中の目標がポイントゲットだったので取れて良かったです。また是非参加したいと思っております。

メカニックのコメント ～重藤 大貴 (水戸千波店) ～



今回、86/BRZ レースにメカニックとして参加させていただき誠にありがとうございました。私は主にタイヤの内圧を担当させていただきましたが、普段は気にならないような誤差がレースになると 100 分の 1 まで細かく設定する必要があり、その小さな誤差がタイムに響くということを知り驚きました。また、その他にも普段の整備作業に比べると限られた時間で状況に応じた細かなセッティングを行う必要があり、判断力とスピード、正確性など多くの大切なことを学びました。また機会があればレースメカニックとして参加し、さらに知識を深めていきたいです。

メカニックのコメント ～矢島 右喬 (アートタワー水戸店) ～



86/BRZ レースに参加させて頂くにあたり、店長をはじめ、ご支援ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。モータースポーツはいつも観戦するだけでしたが、今回メカニックとして参加できるのはとても楽しみでした。今レースでは、タイヤ交換などPit作業の他、マシントラブルでトランスミッションの交換を実施。決められた走行枠の中でセットアップを実施するため、何とか次のセクションに間に合わせようと、メカニック全員で協力し工具や環境が限られている中で必死に作業し、無事に1時間15分で交換しギリギリ次のセクションで走らせることができ、とても感動しました。普段では味わうことのない経験や学べる事が沢山ありましたので今回参加でき大変良かったです。また86/BRZ レースに参加できるチャンスがありましたら是非参加したいです!ありがとうございました。

チーム監督のコメント ～石川 一郎 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



GR86/BRZ Race 第 6-7 戦十勝スピードウェイの結果は、第 6 戦が予選 6 番手/決勝 6 位、第 7 戦が予選 12 番手/決勝 11 位でした。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。今年の十勝は初日 2 日目と雨・気温 14℃と真夏とは思えない寒さで、土日は打って変わって晴れ・気温 26℃と難しいコンディションでしたが、最後までベストなセットを探り続け、このレースウィークではいちばんの状態で決勝レースに臨むことができ、オートポリス(5 位)以来となる 6 位入賞で 6 ポイントを獲得することができました。また、レースウィーク中、駆動系のトラブルに見舞われましたがメカニックの懸命な作業により走行を再開、チームスタッフ全員で協力し、終始良い雰囲気の中、レースを楽しみながらベストを尽せました。次回のレースは 9 月 23 日 (日) に、ツインリンクもてぎで開催されます。ホームコースですのでチームにとっても期待がかかる一戦です。今季ベストリザルトを残せるよう頑張ります。今後ともご声援、よろしくお願ひいたします。